

楕円曲線の数論幾何 (第 7 回)

1. 楕円曲線と保型形式

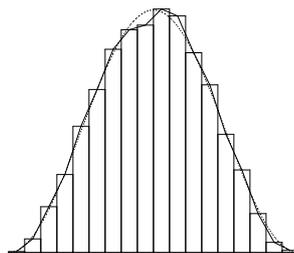
重さ 2 の保型形式 $f(q) = q \prod_{n=1}^{\infty} (1 - q^n)^2 (1 - q^{11n})^2 = \sum_{n=0}^{\infty} a_n q^n$ の展開係数で a_p を定める.
 また, 素数 $p \neq 11$ に対し, 楕円曲線 $E : y^2 + y = x^3 - x^2$ の \mathbb{F}_p -有理点の個数を $\#E(\mathbb{F}_p)$ とおく. このとき, $a_p = p + 1 - \#E(\mathbb{F}_p)$ が成り立つ. (L 関数の一致)

p	2	3	5	7	11	13	17	19	23	29	31	37	41	43	47
a_p	-2	-1	1	-2	1	4	-2	0	-1	0	7	3	-8	-6	8
$\#E(\mathbb{F}_p)$	5	5	5	10	—	10	20	20	25	30	25	35	50	50	40
p	53	59	61	67	71	73	79	83	89	97	101	103	107	109	113
a_p	-6	5	12	-7	-3	4	-10	-6	15	-7	2	-16	18	10	9
$\#E(\mathbb{F}_p)$	60	55	50	75	75	70	90	90	75	105	100	120	90	100	105
p	127	131	137	139	149	151	157	163	167	173	179	181	191	193	197
a_p	8	-18	-7	10	-10	2	-7	4	-12	-6	-15	7	17	4	-2
$\#E(\mathbb{F}_p)$	120	150	145	130	160	150	165	160	180	180	195	175	175	190	200
p	199	211	223	227	229	233	239	241	251	257	263	269	271	277	281
a_p	0	12	19	18	15	24	-30	-8	-23	-2	14	10	-28	-2	-18
$\#E(\mathbb{F}_p)$	200	200	205	210	215	210	270	250	275	260	250	260	300	280	300

2. 佐藤 - テイト予想

$p + 1 - \#E(\mathbb{F}_p) = 2\sqrt{p} \cos \theta_p$ ($0^\circ \leq \theta_p \leq 180^\circ$) とおく. (11 を除く) 最初の 1900 個の素数について, 10° ごとに θ_p の表を作ると, $\sin^2 \theta$ の形に分布する.

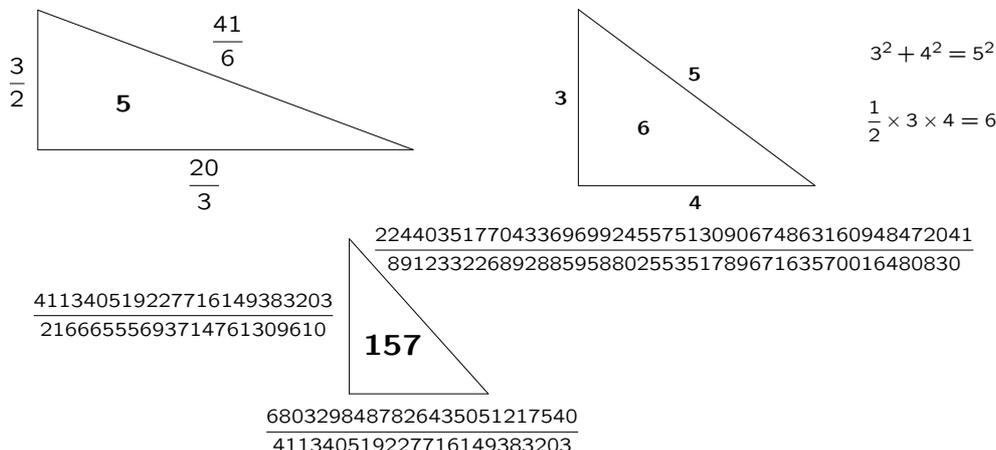
$0^\circ \leq \theta < 10^\circ$	1	$60^\circ \leq \theta < 70^\circ$	177	$120^\circ \leq \theta < 130^\circ$	146
$10^\circ \leq \theta < 20^\circ$	12	$70^\circ \leq \theta < 80^\circ$	194	$130^\circ \leq \theta < 140^\circ$	103
$20^\circ \leq \theta < 30^\circ$	40	$80^\circ \leq \theta < 90^\circ$	198	$140^\circ \leq \theta < 150^\circ$	72
$30^\circ \leq \theta < 40^\circ$	68	$90^\circ \leq \theta < 100^\circ$	212	$150^\circ \leq \theta < 160^\circ$	34
$40^\circ \leq \theta < 50^\circ$	110	$100^\circ \leq \theta < 110^\circ$	206	$160^\circ \leq \theta < 170^\circ$	9
$50^\circ \leq \theta < 60^\circ$	142	$110^\circ \leq \theta < 120^\circ$	174	$170^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$	2



3. 直角三角形の面積とバーチ - スイナートン=ダイヤー予想

問題. 3辺の長さが有理数の直角三角形の面積となる自然数を**合同数**という. どのような n が合同数か?

例えば, 5,6,157 は合同数だが, 1 は合同数でない. (問題: 7 は合同数であることを示せ.)



合同数判定予想. $n \geq 1$ を奇数で, 平方数で割れないとする. 次の (1),(2),(3) は同値である. (n が偶数の場合の予想もある.)

- (1) n は**合同数**である. 3辺の長さが有理数の直角三角形で面積が n のものが存在する.
- (2) 楕円曲線 $E_n : y^2 = x^3 - n^2x = x(x+n)(x-n)$ に**無限個の有理点が存在する**.
- (3) 「 $n = 2x^2 + y^2 + 32z^2$ の整数解の個数」の2倍が, 「 $n = 2x^2 + y^2 + 8z^2$ の整数解の個数」に等しい.

(1) \Leftrightarrow (2) : $E_n(\mathbb{Q})$ のねじれ点は $O, (0,0), (\pm n, 0)$ のみである (それほど難しくない). n が合同数なら, $x^2 + y^2 = z^2, \frac{1}{2}xy = n$ をみたす有理数 $0 < x < y < z$ が存在する. $a = \frac{z^2}{4}, b = \frac{(y^2 - x^2)z}{8}$ とおけば, $(a, \pm b) \in E_n(\mathbb{Q})$ は無限位数の有理点である. 逆に, $P \in E_n(\mathbb{Q})$ を無限位数の有理点とする. $[2]P = (a, b)$ とおくと, $b^2 = a(a+n)(a-n)$ から $\sqrt{a}, \sqrt{a+n}, \sqrt{a-n} \in \mathbb{Q}$ であり, $x = \sqrt{a+n} - \sqrt{a-n}, y = \sqrt{a+n} + \sqrt{a-n}, z = 2\sqrt{a}$ とおくと, $x^2 + y^2 = z^2, \frac{1}{2}xy = n$ をみたすから n は合同数である.

(2) \Rightarrow (3) : タンネルの定理 (志村対応, ヴァルジュブルジェの定理)

(3) \Rightarrow (2) は未解決. **バーチ - スイナートン=ダイヤー予想** (の一部)

$$\#E_n(\mathbb{Q}) = \infty \iff L(E, 1) = 0$$

が正しければ成り立つ. (「 $\#E_n(\mathbb{Q}) = \infty \Rightarrow L(E, 1) = 0$ 」はコーツ - ワイルズの定理)

(3) の条件は容易に確認できる. 「 E_n の有理点が有限個」の十分条件が得られる ((2) \Rightarrow (3) の対偶). しかし, 「 E_n の有理点が無限個」であることを有限回の計算で判定する方法は知られていない.